

科目名	基礎ゼミ1			ナンバリング	RLA231	授業形態	演習
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員	菊池真弓、上遠野和村、五十嵐幸一、高島翠				

授業の概要	本演習では、1年次に身につけたアカデミック・スキルやリテラシーをさらに発展させ、メジャーでの学修に必要な基礎的な技能を身につけてゆく。具体的には、メジャーに関連する基礎的文献を探し集める力(①情報収集の技法)、それらを読み解く力(②読む技法)、それらを要約し、自らの主張をまとめる力(③書く技法)、発表・議論を行う力(④発表する技法)を修得することにより、地域基盤型職業人に求められる「社会人基礎力」を身につけることを目標とする。また、成果目標として、終了時に、基礎ゼミ2で作成するレポートの「テーマ」と「テーマに関連する文献」を決定することが求められる。						
到達目標	メジャーに関する基礎的な知識、視点ならびに技能を修得し、メジャーに関連する問題やテーマを自ら見出せるようになることを到達目標とする。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	メジャーに関する基礎的な知識、視点ならびに技能を修得し、メジャーに関連する問題やテーマを自ら見出せるようになることを到達目標とする。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. メジャーに関連する基礎的文献を読み、文章の構造を理解した上で、レジュメを作成できる。 2. メジャーに関する基礎的な知識について説明できる。 3. 基礎ゼミの活動へ興味をもち、自分の役割を担うことができる。	1. メジャーに関連する基礎的文献を批判的に読み込み、自分の意見や疑問も盛り込んだレジュメを作成できる。 2. メジャーに関連する基礎的な知識について、相互に関連づけながら説明できる。 3. 基礎ゼミ活動へ興味をもち、不明な点について自発的に調べたり、考えたりできる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
期末提出物	○	○			○		
授業内提出物	○	○			○		
授業への参加度	○	○	○	○	○		
出席			○	○			欠席した場合、減点となる ことがある。

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索の過程において、適宜コメントする。 2. レジュメ作成の過程において、適宜コメントする。 3. 口頭発表に対して、コメントする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス：自己紹介、チューター別クラス確認、「地域と社会」メジャーの基礎ゼミの位置づけについて	本演習の位置づけと注意点、半期を通じての流れと内容について理解し概説できる。説明と質疑応答	
	第2回	「地域と社会」メジャーでの学びの概要	「読む力」「書く力」「発表する力」を習得するとともに、仮説論証型レポート作成を前期の到達目標とすることの確認を具体的に示し確認及び質疑応答	
	第3回	「読む力」①	論証型レポート、論文の構造を理解し、「問い」について取り上げ、概説できる。	
	第4回	「読む力」②	論証型レポート、論文の構造を理解し、「論拠」について取り上げ、概説できる。	
	第5回	「書く力」①	これまでのレポートの構造を理解し、レジュメの作成について理解し、概説できる。	
	第6回	「書く力」②	レポート、論文の構造を理解し、アウトラインとなるパラグラフライティングについて理解し、概説できる。	
	第7回	「発表する力」①	レポート、論文の構造を理解し、アウトラインとなるパラグラフライティングについて及びレポートの論拠を理解し、プレゼンテーションするスキルも駆使し、発表できる。	
	第8回	「発表する力」②	レポート、論文の構造を理解し、アウトラインとなるパラグラフライティングについて前回までの内容を踏まえ、序論・本論・結論のトータルなレポートスタイルを理解し概説および発表できる。	
	第9回	「議論する力」	レポート、論文の構造を理解し、アウトラインからレポート作成に向けたステップを理解し、概説できる。	
	第10回	「調べる力」①	レポート、論文におけるデータの種類、扱い方等について理解し、概説できる。	
	第11回	「調べる力」②	文献、資料検索について理解し、実際に検索および取り出すことができる。	
	第12回	「調べる力」③	レポート、論文作成での引用や注について理解し作成できる。	
	第13回	レポートテーマの決定と作成計画	個々の学生が興味関心を持ち取り組むレポートテーマを決定し、仮説論証型レポート作成の企画ができる。	
	第14回	レポートの作成	レポート作成の進捗状況の報告を行い、次回の報告に向けた準備ができる。	
	第15回	レポートの報告、基本文献の確認	レポート作成企画から作成概要についてレジュメを作成し発表できる。 後期使用の基本文献を確認し、夏休みの課題として後期の縦鼻を進める。	
	試験	試験は行わない		
授業の進め方		メジャークラスでガイダンスやレクチャーを実施後、チューターゼミ別に分かれて授業を実施する。また、論拠に基づいた仮説検証型レポートの個人執筆の力をつけるため、ワークシートでの課題提出を求める。		
授業外学習の指示		毎回課題を課すため、90分の時間を要して事前準備を進め、次回の講義に疑問や質問及び課題と感ずる点を整理しておく。 （授業外学習時間： 毎週 分）		

教科書	適時資料は配布
参考書	授業の内容に応じ適時支持する
参考URLなど	
その他	

科目名	基礎ゼミ2(国際コミュニケーション)			ナンバリング	RLA241	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	小池久恵	担当教員					

授業の概要	メジャーに関する基礎的なトピックについて、調査、実験、実習等をおこない、その成果を発表する一連の過程、さらに「専門ゼミ」、「卒業研究」で要求されるレポート・論文の基本的な書き方を解説する。基礎ゼミ1で学んだ内容をもとに、専攻するメジャーで学ぶための基礎力について総仕上げをおこない、3年次以降の学修について具体的な展望をもち、明確な学修目標と学修計画を自ら立てることを目的とする。						
到達目標	レポートの提出及びレポート内容をまとめたプレゼンテーションをメジャー横断でおこなうことができる力を習得する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	文献検索・文献要約などに各自の自律的な学習が求められる。学期中に数回プレゼンテーションをおこない、学期末にまとめのレポートを提出する。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
資料情報収集、文献の読解、レジュメ・レポートの作成、発表・プレゼンテーションの実践に関し、基本的知識と技能を修得している。	資料情報収集、文献の読解、レジュメ・レポートの作成、発表・プレゼンテーションの実践に関し、専門の研究に結びつけた自律的活動ができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		30%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		30%
授業態度・授業への参加			○	○			10%
プレゼンテーション・発表	○	○	○	○	○		30%

課題、評価のフィードバック	課題についてはmanab@IMUを通してフィードバックをおこなう。 授業内での提出物はコメントをつけて返却し解説する。また文献検索・レジュメ作成・口頭発表の過程においても適宜コメントする。
---------------	---

科目名	基礎ゼミ2			ナンバリング	RLA241	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	大原貴弘	担当教員	末次晃、大島典子				

授業の概要	本演習では、メジャーでの学修に必要な基礎的な技能修得の総仕上げを行い、3年次以降の学修について具体的な展望、学修目標、ならびに学修計画を自ら立ててゆく。具体的には、メジャー科目の基礎的なトピックについて、調査・実験等の準備・実施、ならびにその成果の発表を行うことにより、次年度以降の「専門ゼミ」、「卒業研究」で要求されるレポート・論文の基本的な書き方、構造を説明できることを目標とする。また、成果目標として、レポートの提出およびその内容のプレゼンテーションをメジャー横断で行うことが求められる。						
到達目標	メジャーに関する基礎的な知識、視点ならびに技能を修得し、メジャーに関連する問題やテーマを自ら見出せるようになることを到達目標とする。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献講読、レジュメ作成、ならびにグループワークについては、十分な事前準備が必要である。特に文献について不明な点がある場合には必ず発表前に調べておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. メジャーに関する基礎的なトピックについて、調査・実験等の実施ができる。 2. メジャーに関する基礎的なトピックについて、基本的な書き方に基づいて、レポート・スライドを作成できる。 3. 基礎ゼミ活動へ興味をもち、自分の役割を担うことができる。	1. メジャー科目の基礎的なトピックについて、能動的かつ探索的に、調査・実験等の実施ができる。 2. メジャー科目の基礎的なトピックについて、自分の意見や疑問も盛り込んだレポート・スライドを作成できる。 3. 基礎ゼミ活動へ興味をもち、不明な点について自発的に調べたり、考えたりできる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		20%
期末提出物	○	○			○		50%
授業内提出物	○	○			○		30%
出席			○	○			欠席した場合、減点となる ことがある。

課題、評価のフィードバック	1. 調査・実験等の過程において、適宜コメントする。 2. レポート作成の過程において、適宜コメントする。 3. スライド作成・口頭発表の過程において、適宜コメントする。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス	授業の目標・進め方の説明	
	第2回	調査目的の決定	調査目的の設定方法についての説明、グループごとの作業	
	第3回	質問紙の作り方	質問紙の作成方法についての説明、グループごとの作業	
	第4回	尺度の作成1	尺度の作成方法についての説明、グループごとの作業	
	第5回	尺度の作成2	グループごとの作業	
	第6回	尺度の作成3	グループごとの作業	
	第7回	質問紙調査の実施とデータ入力	データ入力方法の説明、グループごとの作業	
	第8回	データの分析1	データ分析の方法についての説明、グループごとの作業	
	第9回	データの分析2	グループごとの作業	
	第10回	結果の解釈と考察1	グループごとの作業	
	第11回	結果の解釈と考察2	グループごとの作業	
	第12回	スライドの作成1	スライドの作成方法についての説明、グループごとの作業	
	第13回	スライドの作成2	グループごとの作業	
	第14回	メジャー内発表会	グループごとの発表	
	第15回	全体発表会	グループごとの発表	
	試験	試験は行わない。		
授業の進め方		質問紙作成方法やデータ分析方法等についての説明の後、教員の指示に従って、グループごとに作業を進める。次回までの課題を出すこともある。		
授業外学習の指示		ゼミ内での活動に先立ち、キーワードについて調べて、準備をしておくこと。また、ゼミ内で出された課題については次回までにまとめること。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	必要に応じて、適宜、追加資料の配布を行う。
参考書	特になし。
参考URLなど	特になし。
その他	

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	基礎ゼミ1の学習内容を振り返り、後期のテーマを確認する。	
	第2回	文献研究・研究テーマの探索(1)	各自の研究テーマと必要な文献について考える。	
	第3回	文献研究・研究テーマの探索(2)	各自の研究テーマに沿った文献の要約を進める。	
	第4回	文献研究・研究テーマの探索(3)	各自の研究テーマについて設定の理由を含め概要を説明する。	
	第5回	文献研究・研究テーマの探索(4)	各自の研究 テーマについて基本的な研究手法を説明する。	
	第6回	研究テーマについての報告(1)	各自の研究テーマについて研究の進捗状況を報告し意見交換をおこなう。	
	第7回	研究テーマについての報告(2)	各自の研究テーマについて研究上の問題点や課題点を述べる。	
	第8回	研究テーマについての報告(3)	各自の研究テーマについて今後どのように研究を進めるかを説明する。	
	第9回	レポートの作成(1)	レポートの構成、執筆方法、使用表現や引用の仕方について基本的事項を説明する。	
	第10回	レポートの作成(2)	報告するレポート、説得するレポートについて基本的事柄を説明する。	
	第11回	レポートの作成(3)	研究内容に基づいてアウトラインを作成し、ドラフトに至る基本的流れを説明する。	
	第12回	レポートの作成(4)	意見交換によりドラフトの内容の改善点を見つけ、修正・推敲を適切におこなう。	
	第13回	レポートの発表(1)	レポートの内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーション発表の準備をおこなう。	
	第14回	レポートの発表(2)	プレゼンテーション・質疑応答により、発表方法の改善点を見つける。	
	第15回	まとめ	メジャー横断のプレゼンテーションをおこなう。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		プレゼンテーション用レジュメ、およびレポートの提出にはmanab@IMUを利用する。		
授業外学習の指示		アカデミックスキル意識して、課題に関する文献の購読および発表等の準備をすること(90分)。 授業内容を振り返り、学習知識を定着させ、各自の研究に成果を反映させること(90分)。 (授業外学習時間： 毎週 分)		

教科書	プリントを使用する。
参考書	適宜紹介する。
参考URLなど	適宜紹介する。
その他	